



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会
〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知保険医会館内
TEL : (052) 832-1349
FAX : (052) 834-3584

「保険で良い歯科医療」請願署名愛知で4万筆を集約 愛知連絡会が第12回定期総会を開催

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は5月27日(日)午前10時～12時に、愛知県保険医協会伏見会議室で第12回定期総会を開催し、2017年度活動報告、2018年度活動方針などを確認しました。当日は、連絡会構成団体に加え歯科技工士や一般の市民の方々など58人が参加しました。



はじめに江原雅博会長が「今回の診療報酬改定で、歯科医院の院内感染対策に施設基準が設けられ、医療機関の間に格差が生じる危険がある。国民のために、本当に安全な歯科医療が行えなくなってしまう。誰でも安心して歯科医療が受けられるように連絡会の活動を一層がんばっていきたい」と挨拶しました。



続いて大藪憲治副会長から、17年度活動報告・18年度活動方針案を提案、決算・予算案、役員・世話人体制案とあわせて提案され、採択されました。17年度は「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名を4万73筆集約し、国会に提出しました。

記念講演



「噛める、食べられる お口の機能を守る歯科技工士がいなくなる?
～歯科技工士の厳しい現状と問題解決への道筋～」

講師：雨松 真希人 氏
(「保険で良い歯科医療を」全国連絡会会長・歯科技工士)

記念講演は、「保険で良い歯科医療を」全国連絡会会長の雨松真希人氏に、「噛める、食べられる お口の機能を守る歯科技工士がいなくなる?～歯科技工士の厳しい現状と問題解決の道筋」をテーマにお話を伺いました。

雨松氏は、市民も多く参加していることに鑑み、冒頭に保団連が作成した歯科技工パンフレットに沿って歯科技工士問題とは①慢性的な長時間労働で低賃金であること②卒業後5年以内の離職率が約8割であること③業種として高齢化しており手不足となっていることであると歯科技工士をめぐる問題点を解説しました。

その上で、歯科技工物を製作する過程をスライド写真などでわかりやすく説明し、歯科技工物がオーダーメイドであることや製作に

時間を要すること、納品時の価格などを示して、労働に見合った価格になっていないことを紹介しました。

歯科技工士は、国家資格であり、資格取得のために養成学校・専門学校を卒業しなければならず、そこには当然「学費」の問題が生じる。奨学金という名の借金を背負ってまでやりたい仕事を始めたのに、将来に展望が持てずに離職していく若者が多数いることは本当に悲しいことであり、若者がどんどん辞めていく中で、業種として高齢化していくことは自明であると述べました。

最後に「慢性的な長時間労働で低賃金であることが、歯科技工士をとりまく環境だけでなく歯科医療全体を歪めている。その原因をダンピング競争や値下げ要請という歯科医療機関と歯科技工士の間の問題に矮小化

してはいけない。

歯科技工物が市場価格で決められており、歯科医院との取引には全くルールがないこと、七三告示はあっても、積算による技工価格の決定の仕組みがないこそが歪みの原因である。その根本には国の低歯科医療費政策がある」と看破しました。

労働実態、原価計算に基づいた保険点数の決定、実効性のある取引ルールの確立が問題解決の道筋であり、そのためにも歯科医療費の増額を求める運動を歯科医師、歯科技工士、市民とともにすすめようと講演をまとめました。

講演後の質疑では、参加された歯科技工士の方から、実情を紹介するお話を伺って、講演会を終えました。

総会 参加者からの発言

患者さんと共に 署名活動の継続を はみんぐ歯科 岩瀬さん

南区に2件歯科医院を運営している、医療法人はみんぐの岩瀬と申します。歯科医師が4人・歯科衛生士が9人・歯科技工士が3人働いています。月の患者さんの数は約1,000人いらっしゃいます。愛知民医連では、署名集約数1万筆を目指に掲げ、自院では2千筆を目標に取り組み、2,592筆の署名を集めることができました。

定期検診の案内を封書にして一枚ずつ署名用紙を入れ、受診の際に患者さんから持参して頂く方法と、日頃から協力いただいている団体に20枚・30枚と渡して集めてくれる人を増やすという取り組みを行ってきました。

「時給が1,500円になつたら何がしたい」というアンケートに「まず歯医者に行きたい」という意見があつ



たと紹介されています。如何に歯科受診を我慢して後回しにしている人が多いかがわかりました。

特に若い人に非正規の方が増える中、3割負担が重く、治療を続けられず完治が困難な人もいるという事を実感しています。

歯が健康な人ほど豊かな人生が送れるということが様々なデータで示されています。医療費の総額も少なくなり、認知症になる割合も少なくなるという事です。署名は2年に1回の取り組みですが、この運動を通して患者さんにも訴えかけて、継続的に職員と患者さんとともに進めていきたいと思っています。

ろではどうやって署名を集めておられるか、お話を聞く機会がありました。

取り組みとしては、歯科医師が前面に出て、歯科医師の顔を出したポスターを待合室に張り出すとか、待合室で定期的に署名の呼びかけを放送で流すなどの話が聞けました。

自院には大きなビジョン（歯科の啓蒙などで使うもの）がありますので、次回からもっと大きくアピールして、先生も顔を出し、患者さんに寄り添って署名活動を行うことが有効であると聞いているので、今後の運動に生かしていきたいと思います。

2018年度活動方針

- ①県内自治体で「保険で良い歯科医療を求める意見書」採択運動に取り組む。
- ②若い世代の離職など、歯科技工士の現状を改善する運動に取り組む。歯科技工士との対話をを行い、連絡会の活動に参加してもらえるよう働きかける。歯科衛生士とも協力関係が作れるよう取り組む。
- ③糖尿病予備群への歯科検診事業の実施、子どもの歯並びの治療の保険適用など、患者・住民の要望を汲み上げて、実現のために県内自治体、関係各所に働きかける。
- ④地方議員に歯科医療の現状や重要性を訴える活動を行う。
- ⑤市民向けの取り組みとして、市民公開講座や出前学習会を開催する。連絡会参加団体と協力して、年齢や対象、テーマなどを広げて取り組む。
- ⑥イレバデー（10/8）からイハイハデー（11/8）までのアピール月間に街頭宣伝などを行い、歯の健康や歯科医療改善の必要性を訴える取り組みを行う。
- ⑦連絡会ニュースを定期的に発行する。
- ⑧事務局会議・世話人会の定期開催と組織の強化をめざす。
- ⑨「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。

閉会の挨拶 安藤さん

本日は参加が約58名、歯科技工士が7名お見えになつてます。この間、歯科をめぐる問題の中で歯科技工をめぐる問題が大きく取り上げられています。歯科技工士は「仕事にならない」「値段を上げてほしい」と、一か八かの状況で仕事をしており、一方で歯科医療者も、それを分かっていながらなかなか改善できない。今その両者が向かい合う時期に来ていると思います。

厚労省もその実態を知っていますが、お金がないと言つて逃げてきて20年、歯科医療を巡る状況は全然変わつていません。

介護職の離職率30%と言われていますが、技工士は80%です。技工士は習熟するまで時間が掛かるのに、学校を出て勤めはじめたら、次の日からすぐ何本作るようと言われる。技工所側も賃金を払わないといけない。その結果深夜まで働いてという状況になつてしまふ。



今ある技術を若い人に伝えるには、公的な保障が必要です。一人技工所ではとてもできません。

歯科技工士という職業は知られていません。娘が3人いますが、誰も知らないと言われてがっかりしました。

我々に必要なのは技工士として市民の中に入つて、パンフレットなどで技工士の問題を知ってもらうことです。技工士はどんな仕事なのか、高齢者の義歯は誰が作るか、厳しい条件で作つてることなどを知つてもらう。議員さんや色々な団体とも話をしながら、実態を知って頂くことから始めなければならないと思います。今年一年やらせて頂きますので、よろしくお願いいたします。

歯科医師が前面に出て 呼びかけをしよう



北医療生協 北生協歯科 久野先生

自院も歯科署名に取り組みましたが、目標の3千筆に遠く及ぼませんでした。患者さんのチアサイドで署名をお願いしたりするなどの取り組みを行つてはいたが、他の全国的なとこ